

起立・歩行障害に対するロボットアシストを 用いたリハビリテーション － 臨床研究からみた効果と今後の展望 －

渡邊大貴 先生

(アール医療専門職大学・教授 / 筑波大学・客員研究員)

令和7年11月14日(金) 18:00～20:00
筑波大学(D棟306会議室) およびオンライン(Zoom)

本研修会では、「起立・歩行障害に対するロボットアシストを用いたリハビリテーション」について、これまでの臨床研究データを交えながらご紹介いたします。近年、医療工学の進歩により、リハビリテーション分野には多様なロボットアシスト機器が導入されつつあります。医療分野では、「歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)」が8つの神経筋難病疾患に対して保険適用となっています。介護分野では、利用者の自立支援や介護者の負担軽減を目的に、厚生労働省と経済産業省が「ロボット技術の介護利用における重点分野」を定め、その開発・導入を支援しています。

当日は、医療・介護現場で活用されている多様なロボットや支援機器の事例を取り上げるとともに、現状の課題や今後の展望についてもお話しできればと考えております。

今回の勉強会では、アール医療専門職大学・教授 / 筑波大学・客員研究員の渡邊大貴先生に「起立・歩行障害に対するロボットアシストを用いたリハビリテーション」の演題で、お話ししていただく予定です。

申し込み締め切りは、11月9日(日)となります。下記QRコード・URLからお申し込み下さい。

この講演会は日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部、アール医療専門職大学、茨城県理学療法士会の後援を受けています。この講演会に参加されますと、日本プライマリ・ケア連合学会 認定医1単位と認定薬剤師1単位が取得できます。

【申し込みフォーム】

<https://forms.gle/pocJ9CDjtEDYGrMi6>

申し込みは
こちらから

